

酒々井町郷土研究会々報

第46号

昭和62年10月1日
発行
酒々井町郷土研究会
編集部

酒々井の井

青木 喜作

酒々井町の町名は養老伝説「酒の井」に由来するという。さてその「酒の井」はどこにあるのか？

編集子に求められるまゝ、伝説の世界をのぞいて見た。

町公認の「酒の井」の碑は酒々井下宿の海宝さんと鶴岡さんとの道を入って行くと右手に小公園風の空地があつて、そのまん中へんに四角に石で囲んだ墓壇の上に苔むした石碑がある。よく見ると表面の上部に阿弥陀如来のシンボルマークである毘(キリク)の形がかすかにわかる。左下にも何か文字のような痕跡があるが風化して読みようもない。左手には新しい石に「伝説酒の井碑」と彫ってあり右手には説明板が建てられている。この古い碑は二三年前まで左手の生垣にかくれるように建てられた只の石塔婆である。

此処は月福院という寺の跡で、す

ぐ傍らに墓地もあり石塔婆があつても何の不思議もない。

ところが今から二百五十年程の昔、徳川八代將軍吉宗の時代の「寺社雑社堂鋪地書上帳」にこの寺について

「一境内ニ酒井壺ヶ所 立石ニ文字切付ヶ有之候」とある。

という事が今年完成した「酒々井町史」に載つてゐるから二三年前からすでにこの石塔婆が「酒の井」の記念碑と信じられていた事はまちがいない。その辺にこの碑が町公認の「酒の井」の記念碑となつた根拠があると思われる。これに似た伝説は酒々井町以外県内に二、三あるがそれらは前記古文書のような確証がないものと思われる。

ところで「酒の井」の碑のあたりのたゞすまいは何とも伝説の舞台としては小さくない。酒々井には昔から清水の湧く所が何ヶ所もあつたといわれるがほとんど涸れてしまつて、今でも清水の湧くのは西井戸だけと聞く。明治の中期まで酒々井にあつた造り酒屋は、この水を酒造りに使つたという。その後は子供達が水浴をしたり、

カニをとったりして遊んだともいうが、現地を尋ねた。農協会館の裏あたりから畑の中の道へ入る。この道は町道と思われ、二米以上はある。ゆるい坂道だが西側から篠の顔の高さに覆いかぶさつて藪の中を歩く感じである。役場発着の二千五百分の一地図も荒地の記号「山」が記入されている。地図のもとになる航空写真も撮つた時にこの藪が写つたからであろう。二、三十米行くと藪はなくなつて坂は少し急になり林に入る。更に少し行くと左手が崖状となり、そこからきれいな水が千百と湧いてゐる。水浴びや酒造りの水を汲むなどはとても考えられないが、祖父の晩酌の「酒」を汲むにはこの方が本當らしい感じがする。あたりのたゞすまは畑から田圃へ下りる坂道の林の中で、昔孝行息子が毎日通つた道のイメージが自然にわく所である。「酒の井」の碑あたりも大昔はきつとこんな所だったのだろう。それにしてもこんなすばらしいところをこのままにしておくのは惜しい。

京成駅から中川の双体道祖神、新堀の双体道祖神、カンカンム口横穴群、上岩橋貝層、もどつて肥前坂から古松の碑、「酒の井」の碑、勝蔵院、そしてこの西井戸の坂を下りながら伝説を偲び、谷津田を向根古谷へ渡り、根古谷双体道祖神、魔三郎石、本佐倉城跡、大佐倉双体道祖神、勝胤寺、大佐倉駅というハイキングコースを整備できないものだろうか？ 今のままでは新町民などは案内人なしでは、このすばらしい西井戸の坂に近付くこともできない。もしこのコースができれば、町内外の人々が楽しみを共にするよき場となるのではなからうか？



いられる。試みに飲んで見たらすばらしい味ではあるが酔うことはなかった。どうやら伝説の世界から現実の世界にもどつたようです。ではこの辺で、乱文多謝酒の井の汲めば祖父も月見酒 酒梅庵

歴史の旅 韓国へ

この度郷土研の方々と韓国の旅に

参加させて頂いたごまました。去る六月二十三日から二十八日の五泊六日、総勢三十一名。清州島―釜山―慶州―俗離山―扶余―公州―利川―ソウルの旅でした。六月二十三日成田十三時五十分発大韓航空七二三便に塔乗、夕方清州島に到着。

巨大な三体の仏像が我等を迎える。名刹寺にふさわしい立地と環境、加えて名工の技術の粋を結集した数々の建造物に只々感動するのみでした。二十六日は百済滅亡の歴史が息づく古都扶余と公州の国立博物館、落下岩、白馬江の川下り等を楽しみその夜は温陽温泉に泊る。ここは韓国の三大温泉の一つとか、万病に効能があるといわれる温泉にたっぷり旅の疲れをいやす。



慶州 佛國寺にて

をキョッピリ味わう。外は焼けつくような太陽の光。次は十八世紀頃の庶民の生活を復元した民俗村を見学する。当時の支配階級や富豪の屋敷、空獄等を目のあたりにして何か一気に二〇年前にタイムスリップしたような錯覚をおぼえる。午後韓国の首都ソウルに着く。高層ビル、林立、都会的雰囲気、然し乍ら街角にはものしく武装した警官の姿が目につき、韓国の政情の不安定さを垣間みて反射的に安定した日本の生活に幸せと感謝の念が湧いた。

六十三年のオリンピック開催に向けて、施設や道路が急ピッチで整備されて、先進国に対する追い着き、追いついて、越えのスピードが看取され、粘り強い韓民族の面目躍如たるものがあった。格式の高い朝鮮ホテルで韓国最後の旅情を惜みつゝ一夜をすごす。二十八日ソウルを立ち、空路なつかしの成田空港に到着する。税関でのチェックの厳格さには驚く。

五泊六日の短時日の韓国旅行でしたが、我が国と一衣帯水の位置にある隣国で、巨つ友好関係にある韓国の現状を目のあたりに見聞出来ました事を幸いと存じます。

秋本 たけ子

二十七日は首都ソウルに向う。途中陶芸の里、利川を訪れ、人間国宝の陶芸家・池順鐸氏にお会い出来る。数々の彫状、トロフィーが池順鐸氏の偉大さを雄弁に物語っていた。長い長い登り窯があり、すばらしい数多くの焼物を拝見する。思いかけず日本茶のサービスを受け、祖国の味

はじめの頃は葉菜のみだいたいでありました。が、スーパーで茎を束ねて売っているのを知り、それからはもっぱら茎を栽培していただくようになります。茎の苗がわりは又特別でサラダよし、炒めよし、お浸しよしと私にとっての夏の活力源です。



私がつるむらさきを知ったのは今から十年程前の事でした。幼なじみの家が或るアパートから清浄野菜の栽培を依頼され出荷しているのですが、その友達から大変栽培が難しいからと種をくれた。種は冷蔵庫に少し入れてから播き、発芽がよいといわれましたが、私の小さな畑でも大変発芽の成績はよく、肉の厚い大きな葉でも柔らかく、お浸しにしても又炒め物にしても大変おいしくて葉物の少ない夏の時季の食糧を賑わしてくれました。また作り方は素人の私にも大変やさしく、毎年忘れずにこぼれ種が自然に生えてくれます。肥料うしろのものやらないのに後から後から蔓を伸ばしてくれますので感謝していただいております。

つるむらさきと私

F.F

股くぐり

相京晴次

今回の見学会は松戸地方の三名刺めぐりが中心でありました。最初に訪れた本福寺は、数少ない時宗の寺院で、中世の阿弥陀尊像、鉦鼓などの文化財の外に一過上人の銅像と切られ地蔵の伝説など興味深く拝観しました。

日蓮宗の本本山、本土寺は紫陽花と花菖蒲のお寺として知られておりますが、今回は任職の特別の計らいによって、内部の拝観も許されて、有名な本土寺過去帳やいくつもの茶室と庭園の自然美に接する機会ができたのは大きな収穫でありました。本土寺は酒々井町と深縁をもちたお寺として、一入身近に感じました。本土寺には、江戸時代初頭に本佐倉に万千代屋敷穴堀館を構えて住んだ武田信吉(家康の五男)の母堂の墓があり、また同じく本佐倉の長勝寺(康寺、天文二十年銘の鰯口のおた寺)名儀の畑・山林が明治末年に罌粟、本土寺に移籍されたいんねんかあります。

萬満寺は、一般には中風除けの唐槐供養で知られております。萬満寺の本堂は、本年五月に新築落成されたばかりで、住職が強調していた通りの木造の豪華なものであります。このようなものを生み出すことのできる宗教の不思議な力を感ぜさせられました。

仁王門の金剛力士像は国の重要文化財であります。この像の股をくぐる、何か利益があるそう、競って股くぐりを行いました。真剣にならないうまく股くぐれない股くぐり、その姿と表情は本日(七月二十二日)の圧巻でした。

夏木立くぐる仁王の足太く

七月十九日 文化財愛護の草刈り日である。今年七時開始といふことで、日曜日は朝寝テレーにも拘らず六時起き、さめきれぬ頭で上岩橋貝層に着くと、もう作業は始まっている。おはよう、元氣な声に迎えられ、早速刈られた草を運ぶ強風の中、吹き飛ば草と使えなれない熊手との闘い。終了後、カンカンム口横穴群に向かう。着いてビックリ。例年ならはまたまだ付いていないのが、前の広場もはせ終る寸前、聞けば今回は谷川さんの草刈機が登場。万が一、ケガをさせてはと何と四時から刈られたとか。感謝脱帽。カンチューハイでお開き。参加者 二十名。

九時より伊藤松並木の清掃。こちらは地元の御婦人達の手ぬぐいにボツチガサの艶めかしい姿で多数の参加あり。成田詣での旅人を一息つかせた松並木はずでなく、ありし日に帰れの願いを込めて、郷土研によって植えられた若木の回りを念入りに行う。空缶やビニールなど二十袋もの収穫あり。伊藤の方々持参の漬物物のおいしかったこと。参加者二十四名。とう次回も多数の御参加を。



泉をくんで一休み 泉のよきようにくんでつぎはがらつぎます。よもやまはばなしがあなたもお仲間どうぞ

小田原見学記

中村 寛

六時四十分千葉交通のバスで公民館を出発する。定刻より十分遅れたので、若干遅くしたけれど皆さんの笑い声で気分爽快、大型バスの客となる。バスは東関東の高速に入り、全田会長のさわやかな挨拶が有り一路小田原方面へ。浦安あたりで都会名物の渋滞が始まる。浦安からしばらく走って新木場。そこで渋滞が終り都心を抜けたのが八時三十分、途中休憩なしで小田原城に着く。

九時四十五分、城の堀にかけられ、たお茶壺橋を渡り、風格の有名な獣の王ライオンに迎えられ、城の階段を昇り城内に入る。戦国時代の種々な珍らしい物や参考になる資料等があり、皆さんの足がなかく進まないのが役員、時計を出したり、ひっこめたり。二宮神社にお参りし

た後、大久寺にて歴代藩主の墓を見学する。十一時四十分酒匂川の辺にある「みのや」ドライブインに着き、待望の昼食を頂く。空腹を覚えていたので大変美味しかった。人間は空腹ならばなんでもうまく頂けるものづく感じる。十三時四十分、「みのや」を出て、いよいよ千葉県とも縁の深い石橋山古戦場に十三時に着く。その頃より何となく空模様が怪しくなり、フいにほつほつやってくる。傘を持ってたらたら坂を五分程登ると二道に分れるが、どっちをとっても尋ねる古戦場である。そこは石橋山とも佐奈田古戦場ともいって、石橋山の戦いで討死した佐奈田一義忠を祀る神社も建立され、保存に力を注いでいる様だが、もともとの観光客が来ることを望みながら、そば降る雨の中待っているバスに乗り一同帰路につく。

十四時三十分出発。首都高速に入ると、渋谷から例の渋滞が始まる。帰路の渋滞は気分良好。都会の真ん中でそびえたつビルの素晴らしい建築と建物の中に美しく輝いている色々な照明を觀賞しながら、波瀾を通り過ぎると、バスは順調にスピードをあげ、十六時五十分公民館に着く。

郷土研日誌

月日	内容	参加者数
7/4	古今佐倉真佐子を読む会	14名
7/7	名勝探訪、佐倉街道を歩く	13
7/12	文化財愛護(華川川清掃) 瑞橋賑、カンカンム口、伊藤松並木	46
7/20	県内見学会 松戸方面	32
7/22	〃	35
7/30	役員会	28
8/8	郷土史講座 浦安時大醫院神社 墳墓見の石橋につく	40
8/20	国史民俗博物館見学	23
8/28	会報編集委員会	8
〃	役員会	24
9/5	古今佐倉真佐子を読む会	15
9/11	県外、小田原方面見学会	47
9/22	会報編集委員会	8

郷土研行事業内

10月～12月

	10月	11月	12月	
史談会	3日(土) 午後1:30 古今佐倉真佐子を読む会 中央公民館(現地見学学習を(は)す)	7日(土) 午後1:30 古今佐倉真佐子を読む会 中央公民館	5日(土) 午後1:30 古今佐倉真佐子を読む会 中央公民館	
石仏調査	4日(日) 午前9:00(中央公民館集) 見学地は当日お知らせします。 費用は各自実費負担 (雨天中止)	8日(日) 午前9:00(中央公民館集) 見学地は当日お知らせします 費用は各自実費負担 (雨天中止)	休 み	
名勝探訪 野草の会	22日(木) 午前9:00(中央公民館出)発 房総の村・風土記の丘 竜角寺・岩屋古墳 ・昼食各自持参・費用は各自実費負担 ・町バスを使用します。(自由参加)	11日(水) 22日(日)(雨天社) 午前8:00 京成酒々井駅集合 佐倉街道を歩く(三) 駒形から浅草野原・浅草公園を歩きます 費用は各自負担	6日(日) 9日(水) (雨天中止) 午前8:00 京成酒々井駅集合 佐倉街道を歩く(四) 今戸橋付近から南往、小塚原付近まで歩きます 費用は各自負担	
一泊見学会	10月12日(月)・13日(火) 出発時間 午前6:20 光ドライブイン前 6:25 日栄クリーニング前 6:30 中央公民館	伊豆・下田方面(千葉交通バス)定員50名 コース 1日目⇒酒々井—蕪山反射炉(見学昼食)—大仁東洋 醸造(見学)—松崎長八記念館(見学)—下田(泊) 2日目⇒宿—下田了仙寺(見学)—伊東城(崎)—小田原 (昼食)—道了尊(見学)—酒々井 宿泊—下田温泉ホテル TEL 05582(2)3111 代表 費用—18,000円 空席がありますので実地日前まで参加申込を受け付けます。(満席次第×切) キャンセルは10月5日まで受け付けます。連絡は会田秀雄宅まで		

見学会案内

一泊見学会

10/12(月) 10/13(火)

蕪山反射炉……安政元年(一八五四年)江川太郎左衛門英龍が建造したが、暴風で破壊され、翌年、英龍も没した。その子の英敏が再建した。大砲を鑄造した煉瓦で固い史跡。東洋醸造大仁工場……醗酎の出来るまでを見学します。

長八記念館(浄感寺)……寺紋が十六菊(皇室の紋章)という由緒ある寺で、漆喰細工の大塚、伊豆の長八(入江長八)の「八方にうみの龍」などの作品がたくさんある。又柱や天井には、石田半兵衛の調刻が残っている。了仙寺……徳川幕府が安政元年(一八五四年)に下田条約をヘリと結んだところで、ラマ教の歡喜仏その他の秘仏を集めて一般に公開している。

道了尊……応永元年了庵慧明禪師の開創。建立にあたって慧明の弟子が怪力をもち道了禪師が大活躍し、その後天狗となって永久に寺を守ったといふことから、天狗様の道了尊の名をとり、境内には天狗の下駄が数々奉納されている。

名勝探訪

佐倉街道を歩く(三)と(四) (三)11/1(水) (四)11/2(木)

十一月は京成酒々井から西馬込行の電車で浅草まで降ります。駒形堂から始まる観音様の境内へ入ります。誰でも知っている浅草で、誰も気がなかつた文化財が数え切れない程あります。それらを見て廻ると昼過ぎまでかかります。

昼食は浅草で何でもという事になります。昔は安くてうまかった浅草の飲食店も今

は様変わり、安くてうまい店を見つけるのはむずかしいなっていますから、みなさんの腕次第というところ。それから聖天様から今戸あたりまで行かれ、ばと思ひます。

十二月はその先になりますが、電車を降りる駅は同じ浅草です。

今戸付近から旧奥州街道と新(といっても家康の時代の)奥州街道に分れますが、この間をジグザグに歩きます。この辺は千葉氏の石浜城付近で根吉谷城時代の昔も徳はれ、また、梅若丸や浅茅ヶ原の鬼婆などの伝説もあるところです。更に先は荒川区に入りますが、江戸時代の人切場があり、此処では日本で初めて杉田玄白、前野良沢が刑死者の人体解剖を実施したとして知られています。それで時間によって、もう少し先へ行って京成千住大橋から帰るか、少し早目でも地下鉄南千住から上野へ出て帰るか、その時に決めていってしよう。

会計報告

松戸方面見学会	7月20・22日
参加者	67名
収入	
1000x67 = 67,000	
押入料 600	
計	67,600円
支出	
弁当代 300x69 = 20,700	(ドミバ会金)
本土寺見学 600x62 = 37,200	
本橋寺万満寺灯明代 8,000	
バス使用料 2,000x2 = 16,000	
計	81,900円
14,300円 郷土研補足	

編集後記

秋もすっかり深まって参りました。近頃はスポーツや芸術をはじめとして、各地で多彩な行事がくりひろげられています。郷土研でもいろいろ計画しておりますので、お忙しい折ですが、たくさんの方々の御参加をお待ちしています。又、皆様は親しんでいただく会報にしたいと思っておりますので、どうぞ楽しい文や、御意見を寄せ下さい。